

式辞

万物の躍動を告げる早春の良き日、次代を担う若人として次のステージに雄飛する第7期生135名の卒業証書授与式を挙げるにあたり、宗像市長 伊豆美沙子（いずみさこ）様、宗像市教育委員会教育委員 大庭多美枝（おおばたみえ）様、中央学園学校運営協議会の皆様、地域学校協働本部関係者の皆様、小中PTA役員の皆様をはじめ、多数の保護者の皆様のご臨席を賜り、卒業生はもとより、私ども教職員一同にとりましてもこの上ない喜びであります。衷心（ちゅうしん）から感謝申し上げます。

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

さて「卒業」とは、この学び舎で、皆さんが何を学び、どのような人格を備え、成長していったかを次のステージに示していくことを意味します。また、学校にとっては、その教育を通していかなる人材を育成し、社会に輩出したのかと責任を問われることでもあります。

本校は、小中一貫教育コミュニティ・スクールを推進しながらも、シティズンシップ教育の理念にこだわってきました。これは皆さんが、失敗を恐れずにチャレンジし、自分事としてかかわることにこだわりを持ってくれたからできたことです。

体育祭、文化祭等の学校行事だけでなく、生徒会が中心となり、校則改革や百人一首大会など新しいことにもチャレンジしてくれました。その中でも特に凄いと感じたのが中央中独自のジュニアボランティア活動です。地域貢献を目的として、田熊山笠・元気フェスタ東郷・南郷まつり・いせきんクエスト・小中合同挨拶運動・子ども大学などの参画をここにいるたくさんの9年生が行ってくれました。この思いはきっと小学生を含めた後輩たちにもつながっていくと信じています。

私は、日頃より、目指す生徒像の「自主自律・自他尊重・郷土愛」の具体的な姿と学校は「人を幸せにすることを学ぶところであること」、「そのためには高い技術力が必要であり、人は学び続けなければならない」と伝えてきたつもりです。

これが私からの最後のメッセージです。どこか心の片隅にでも入れておいてください。

ロボットやAI（人工知能）、ビッグデータなど現在、科学技術の進展は、私たちの予想を超えたスピードで進んでいます。それに伴い、世の中では新たな仕事やサービスが次々と生まれ、私たちの生活も大きく変化しています。特に機械の自動化によって代わられる職業は多岐にわたっており、つい最近生まれたばかりの人気の職業でさえも、新たなサービスの出現により、あっという間に消え去ったりするようなことも起きています。生徒の皆さんが活躍する社会では、一つの仕事に就いて定年退職までというようなことができる人は、ほぼありえないことかもしれません。このような変化の激しい社会を生き抜いていくためには、今まで以上に「自分で考え、判断し、決定し、行動できる力」（自律の力）を身に付けることが大切です。あえて誤解を恐れずに言えば、日頃から私たちが学校教育の中で大切にしてきた「礼節」や「忍耐」、「協調」といった日本の特性ともいえる価値観より優先すべきもの

だということです。指示されたことを適切にやり遂げることのできる力は確かに大切な力の一つではありますが、指示されることに慣れてしまっはけません。慣れすぎていくと人は指示されないと動けない人間になってしまいます。そして指示の内容や与えてもらうサービスに不満ばかり言うようになっていきます。遂には、自分がうまくいかないことがあると常に人の所為ばかりにしてしまうような人間になってしまいます。させられている感・してもらっている感からの脱却が必要なのです。

現在、私たちが過ごすこの時代は、予測困難な時代と言われており、不安を感じている人もいるかもしれません。

でもね、見方を変えれば自由な発想で世界を変える機会に溢れているという事になります。この数年間、学校生活に制限を余儀なくされる中で、その環境に対応し、新たな価値を創造してきました。その努力が学校の伝統を途切れさせることなく、後輩に引き継ぐことにもつながりました。これからも変化を恐れずに挑戦し、変化と共に成長することで、自らの可能性を伸ばし続けてください。そして皆さん一人ひとりの人生を輝かせ、わが国（日本）の伝統や文化を尊重しつつ、持続可能な社会の創り手として、活躍されることを期待します。

最後になりましたが保護者の皆様一言ご挨拶申し上げます。お子様の晴れのご卒業おめでとうございます。今日まで深い愛情をもって育ててこられました保護者の皆様に対して、深甚なる敬意を表しますとともにこれまで本校におよせいただきました物心両面からのご理解ご協力に対して厚く感謝申し上げます。

それでは卒業生の皆さん、皆さんの輝かしい前途と幸せを祈念して式辞といたします。

令和6年3月8日

宗像の郷 中央学園 宗像市立中央中学校 校長 竹原 誠